



学びのみちしるべ

第12回

大学での学びの中身と、その学問が社会でどう役立つのかを大学の先生が解説。進路選択のみちしるべとなるよう、高校での学びがその学問にどうつながるのかもお聞きしました。



看護学

【お聞きした先生】>> 共立女子大学 看護学部 基礎看護学
中原り子教授

Q この学問の内容、面白さは？

A **医療安全、災害時の対応を考える災害看護を研究**
医学とは異なる視点でのアプローチが面白い

医学は病気の原因を突き詰め、治療法を追究する学問なのに対し、看護学は病気や治療法だけでなく、患者一人ひとりの人生や生活まで見据えながら、ケアしていくにはどうすればいいかを考える学問です。人が生まれながら持っている回復力を高めるために、医学的な知識はもちろん、心理学や社会学、公衆衛生学、倫理学などの学問を融合させて独自の取組を開発している点が看護学の非常に面白いところです。

かつて古代エジプト、ギリシャの時代は看護と医学は一体化したものでした。それが中世以降、医学と看護は分離。看護は宗教改革の影響を受け、16世紀から19世紀まで停滞しました。しかし、その流れを変えたのがナイチンゲールです。彼女の偉業によって近代看護が始まります。彼女は「看護覚え書き」という自著の中で「看護とは人々の健康に重要な役割を担っている」と記しています。それこそまさに看護学の原点。人の健康に関わる生活上の問題を解決するため、その原因を探り、より健康な状態に向かうための援助法を追究するのが看護学です。

私の専門は医療の安全と災害看護です。1999年にとある病院で患者取り違い事件があった以来、医療の安全が最重要事項になっています。現在の医療現場では、医療者だけでなく、看護も含めて多くの人が関わることで医療の質を担保しています。そこで、ラグビー日本代表の「ONE TEAM (ワンチーム)」同様、看護がチームの一員として医療ミスをなくすために、何をなすべきかを考え、研究しているわけです。

また、こここのところ毎年のように台風や地震など自然災害が起きています。そのたびに不自由な生活を余儀なくされ、健康を害する人々が増えています。こうした問題を未然に防ぐための方法や災害後の対応も研究しています。具体的には自治体や大学病院と共同し、万一の災害時にリスクが起きる可能性を算出、シミュレーションして効果的な対策を考え、試してみてもよい方法を追究。看護という立場からより安全な医療、災害時の対策を研究し、新たな知見を発信できるのは非常にやりがいのあることです。

Q 社会でどのように役立つ？

A **病院だけでなく、地域や在宅の分野にも職域拡大。**
専門看護師、特定看護師などスペシャリストの道も

看護の仕事は病院など医療施設の他、地域や在宅分野まで広がっています。資格取得後、一定の基準を満たせば、訪問看護ステーションや助産所を開業することもできます。また、ここきて看護師の専門化が始まっています。がん専門、糖尿病専門、など専門分野で活躍する「認定看護師」、より高度な水準の看護に携わる「専門看護師」の他、医師が行う医療行為の一部を担う「特定看護師」という資格も生まれています。医師が足りなくなっている今、それを補完する存在として特定看護師が誕生したわけです。さらに国際化が進む昨今では、国際看護という分野も注目されており、国内外を問わずグローバル化に対応できるスペシャリストも求められています。

Q 高校の科目とのつながりは？

A **人体の構造と機能を理解するうえで生物は重要。**
倫理学の知識や現代国語も大切

看護学では人体の構造と機能を理解する力が求められます。ですから、理系科目のなかでも特に生物は重要です。倫理学の知識や現代国語の論説文を読み解く力もあつた方が望ましいです。また、医療現場において治療内容は数字で示されることも多いので、簡単な計算力も必要になってきます。

看護の道を目指したいなら、人に興味を持つことも大事です。そのためにもぜひ高校時代にボランティア体験や1日看護体験などで、ケアを必要としている多様な人々と触れ合ってほしいですね。そうした人との関わりを通して、人への興味も生まれると思います。



日本看護協会のサイト「キラリ! 看護のシゴト」。看護師、助産師、保健師の仕事だけでなく、看護学生のリアルな実習の様子が紹介されている。



哲学

【お聞きした先生】>> 専修大学 文学部 哲学科
貫 成人教授

Q この学問の内容、面白さは？

A **考える対象を自由に選んで、答えの出ないことを**
深く考え、新たな気づきを得るのが哲学の面白さ

哲学って一体何を学ぶのか、ピンと来ない人も多いのでは？ 特に決まり事はないのですが、ただ、「考える」ことが非常に大事な学問です。答えの出ないことを深く考えることで、今までにない気づきを得られるようになる、それが哲学という学問なのです。「考える」対象は何でもOK。自分の好きなもの、興味あるものから自由に選んでいいのです。

そもそも哲学の始まりは古代ギリシャのソクラテスでした。彼はいろいろな人の常識がそれでいいのかということを一いち疑問に思い、質問していったのです。哲学とは、過去の思想家の歴史を記憶することでもないですし、宗教のように奥義を伝授してもらうことでもありません。ましてやテクニカルな議論法を学習することでもありません。ソクラテスのように自分が興味のあることを考え、掘り下げていくこと、それが哲学をするということになります。

一見、社会学や心理学の領域というイメージのあることだとして十分、哲学の研究対象になります。かくいう私自身も「身体メカニズム」という変わった題材をテーマにしています。しかも、個人的にダンスを観ることに目覚め、身体メカニズムから人間の在り方を考えたいと思ったというごく私的な理由です。どうして嬉しいときは身体が動くのか、頭ではやっちゃいけないとわかっていても勝手に身体が動いてやってしまうのはなぜか、エスカレータでつい左側に立ってしまうのはなぜかなど、そういう心と身体の関係のいろいろを考察しているところです。

学生のなかにはスポーツ学、心理学の領域の「イップス」をテーマにしている者たちもいます。イップスとは、精神的なことが原因でスポーツなどができなくなること。例えば、野球選手が人の頭にボールを当ててしまったことで投げられなくなったりすることです。これを高校時代、ゴルフ部だった男子と、バスケットボール部だった女子が、知り合いにインタビューしたり、それぞれの経験をもとに考え、イップスになる原因にはいろいろパターンがあることを発見しました。こんな風に自分の経験や興味あることを研究対象にして深く考えることが哲学の一番の醍醐味です。

Q 社会でどのように役立つ？

A **今の時代に必要な問題発見力、問題解決力が身に付く。**
卒業生にはSEになる人が多いのも特色

私のゼミでは、自分で見つけたテーマについてとことん考えさせます。ある程度、考えたところで文献や資料を読む。そうするとどんなに難解な本でもすいすい読めてしまうからです。そんな具合に哲学科では4年間、まだ答えのないこと、あるいは誰も考えなかったことを考えて、材料を集めて自分で答えを出すということを何度も繰り返すわけです。その結果、自然に問題発見力、問題解決力が備わっていきます。この能力は一般企業でも公務員でも、どんな業種の、どんな職業でも必要な能力です。

ちなみに、本学の学生は他大学・他学部同様、アパレル、金融、不動産などさまざまな業界へ就職していきます。なかでも哲学科の卒業生は高校教員と司書になる人が目立ちます。それらと並んで意外に多いのがシステムエンジニア。哲学は文系に思われがちですが、実は理系に近いところがあります。情報を整理し、論理的に考えてアウトプットしていく学問だからです。

Q 高校の科目とのつながりは？

A **直結する学問は倫理。**
頭の使い方という点で必要なのが数学と国語

哲学に直結している教科は倫理です。しかし、日本史、世界史も重要。例えば、フランス革命の知識があるかどうかで、哲学の歴史を学んだときに大きく理解の度合いも違ってきます。頭の使い方という点で役立つのは数学と国語でしょうか。ただ、興味のあることなら何でも哲学の対象になるので、どの教科が得意、不得意など気にする必要はありません。

私は高校時代、いろんなことに興味がありました。進路選択の際も文学、歴史、生物学などの中から何を学ぼうかさんざん悩みました。ただ、例えば、英文学科などなら文学のみ、歴史学科なら歴史だけになってしまう。そうではなく、何でも研究の対象になるのが哲学と知って選択しました。ですから、いろんな興味がありすぎて、一つの学部にも絞れないという人にぜひ目指してほしいですね。



オススメ BOOK

「大学4年間の哲学が10時間で学べる」(貫成人著、角川文庫)。見開きでワンテーマ。図表も多くわかりやすい。哲学とは何かを気軽に学べる一冊だ。